

要旨作成の注意点

【全体】

- ✓ 見出しは必要ではありませんが、「背景」「方法」「結果」「考察」毎にまとめると、研究内容が読み手に伝わりやすくなります。
- ✓ 要旨では、目的・タイトルと結論が対応している必要があります。（目的に対応する答えを明記されていますか？）

【日本語表現】

- ✓ 「方法」「結果」「考察/結論」は過去形で書きます。
- ✓ 主語（主部）に対応した述語（述部）を用います（主語述語の不一致）
例) この研究の目的は、...を守るためである。（誤）
→ 本研究の目的は、...を守ることである（正）
- ✓ 字数が限られているので、簡潔で必要十分な表現で記述します。
- ✓ 不要な繰り返しを避けます。
例) 「私達は、」などが繰り返しやすい表現
- ✓ 一つの文の中に、主張は1つだけというのが文章の基本です（一文一意）。
→ 複数の主張（述語）がある場合、どちらの主張が著者の真意なのかがわからないので混乱します
- ✓ 一人称に「自分」は使いません。一般的な一人称として「私」などが良いでしょう
→ 一人称の「自分」は、軍隊など特定の状況で使われてきました。現在でも、体育会系など特定の背景を連想させるため、使用を避ける方が良いでしょう。
- ✓ 曖昧な表現を避けましょう
要旨は実施された研究の内容を述べるものなので、具体的な数値を挙げましょう。
例)
【曖昧】「いくつかの培地」、「いくつかにおいて、」は曖昧な表現。具体的な数値で表しましょう
→ 【修正】〇個、約〇個、複数の
- ✓ 「何が、どうした」という流れが明確な文章にしましょう。
例) 「体言止め」は口語表現であり、複数の意味に取れるため曖昧な記述になります。
【曖昧】固定処理した細胞は、90細胞。陽性であった細胞は3細胞。つまり、...
→ 【修正】90細胞を固定処理し、その内3細胞が陽性であった。
- ✓ 本研究発表で完結する内容を記述します。
例) 「〇〇部では、」「本校卒業生の課題研究で、」「先輩の研究で、」など、過去の成果を前提とした背景は、これらを知らない人には疎外感を与えます。
→ 【修正】「これまでの本校の研究により、...」とまとめるか、具体的な内容を論理的に記述します。

[専門用語]

- ✓ 口語表現や通用表現（身近なコミュニティ内での表現や擬人的表現）は使用せず、一般的な用語を使用してください。

例)

- この研究の目的は（口語） → 本研究の目的は
- 捕った（口語） → 捕獲した
- 自分は（口語） → 私は/我々は
- 細胞体内 → 細胞内；（共生させる[擬人的表現] → 共生する）

- ✓ 省略名は、限られた専門家にしか伝わらずもったいなく感じます。一般的な表記が望ましいです。

例) R2A 培地 → 海水細菌用非選択培地である R2A 培地など。。。

例) 「培地」だけではどのような処理をしたかが不明です。具体的に示すために、「選択培地」や「選択寒天培地」などとすると簡潔かつ正確に示すことができます。

【不明】細菌を培地に接種した → 【修正】海水用非選択培地に細菌を接種した

- ✓ 専門用語は正確に表記しましょう。

- ◇ 16SrRNA（古い書き方） → 16S rRNA（スペースが必要）
- ◇ Tree view（誤） → TreeView（正）（固有名詞）
- ◇ B.sediminis（命名法） → B. sediminis（スペースが必要）